

# 未来とは今である

— 2021年のスタートに寄せて —

校長 小島 久 和

皆様、新年おめでとうございます。生徒の皆さん、保護者・地域の皆様には、穏やかなお正月をお過ごしになったことと存じます。また、新型コロナウイルス感染者急増のニュースが報道される中、感染防止にお努めくださりありがとうございます。

今回の学校だよりは、始業式の式辞を中心に書きました。

いよいよ、2021年がスタートしました。3年生にとっては入試の学期、そして中学校最後の学期です。1年生にとっては、先輩になる準備をする学期、2年生にとっては、最上級生になる準備の学期です。A学級にとっては、3年生と過ごす最後の学期、新しい仲間を迎える準備の学期です。それぞれの学年が、次のステージへ進む「ゼロ学期」として3学期をしっかりと過ごしてほしいと思います。活躍を期待します。



さて、今年は丑年。12月の学校だよりに書いたように丑年生まれの人は、大地にしっかり足をつけているイメージがあります。「大地にしっかり足をつけている」私はこのフレーズが大好きです。どっしりしていて揺らがない様が目に浮かびます。西中生の持っている強さにも当てはまると思います。やるべきことをしっかりやって、日々の生活を充実させる努力をしている、そういう生徒が主力だから、西中はぶれないし何年もよい状態が続いていると言えます。しかも年々よくなってきている。越谷のエースをねらっている学校ですから、これくらいは当たり前かもしれませんが、このようなよい状態を「維持」するのは簡単ではありません。生徒の頑張り、職員の努力、保護者・地域の皆様の理解と協力があるからです。そして、連綿と受け継がれていくよい伝統があり、それを引き継ごうとする先輩と受け取ってより高いものにしようとする後輩が続いているからです。通常学級でもA学級でも1、2年生にはやりがいがあります。ただ、重い責任を背負ってもそこは西中生ですから、これまでの先輩たちがそうだったように、明るく元気に受け止めて次の代に引き継いでほしいと思います。西中は進化し続ける学校です。

新しい年にあたり、今年はこの言葉を選びました。

“未来とは今である”（マーガレット・ミード：アメリカの文化人類学者）

目の前のことに全力を尽くす。そうすれば未来は拓ける。今の頑張りが必要を創るということです。“今”を大事にする＝“未来”をつかむ”“夢”を実現する”。新型コロナウイルスについても同様です。「未来の感染状況は、今の行動次第である。」越谷のエースをねらう西中が、先頭に立って「未来」を創っていきます。私にとって大好きな西中生と過ごせるのもあと3か月。残りはわずかですが、新しい気持ちで元気にパワフルに私も西中の未来を創ります。

保護者・地域の皆様、現在の感染状況を鑑み、日本政府によって1都3県に緊急事態宣言が出されようとしています。これまで以上に感染防止の気持ちを高めた生活をしてまいりましょう。西中は、2021年もコロナに負けず「越谷のエース」を目指して頑張ります。どうぞ今年もご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。